

人と本気で向き合い、未来を切り拓く。



編集方針

本レポートは、ネオキャリアグループが2025年1月1日から2025年12月31日までに行ったサステナブルアクションをまとめたレポートです。本社を構える新宿区を中心に、持続可能な未来の実現と地域課題解決に向けて、多岐にわたる取り組みを行ってきました。本レポートは、それらの活動をステークホルダーの皆さまにできる限り読みやすく、ご理解いただきやすいようにまとめました。

本レポートに関するご意見やご質問は下記までお願いいたします。

株式会社ネオキャリア 人事戦略本部社内広報グループ
in_koho@neo-career.co.jp

会社概要

株式会社ネオキャリア
NEO CAREER CO., LTD.

事業内容：採用支援、就労支援、業務支援

設立：2000年11月15日

資本金：100,000,000円

代表者：代表取締役 CEO 西澤 亮一



ネオキャリアグループ
コーポレートサイト

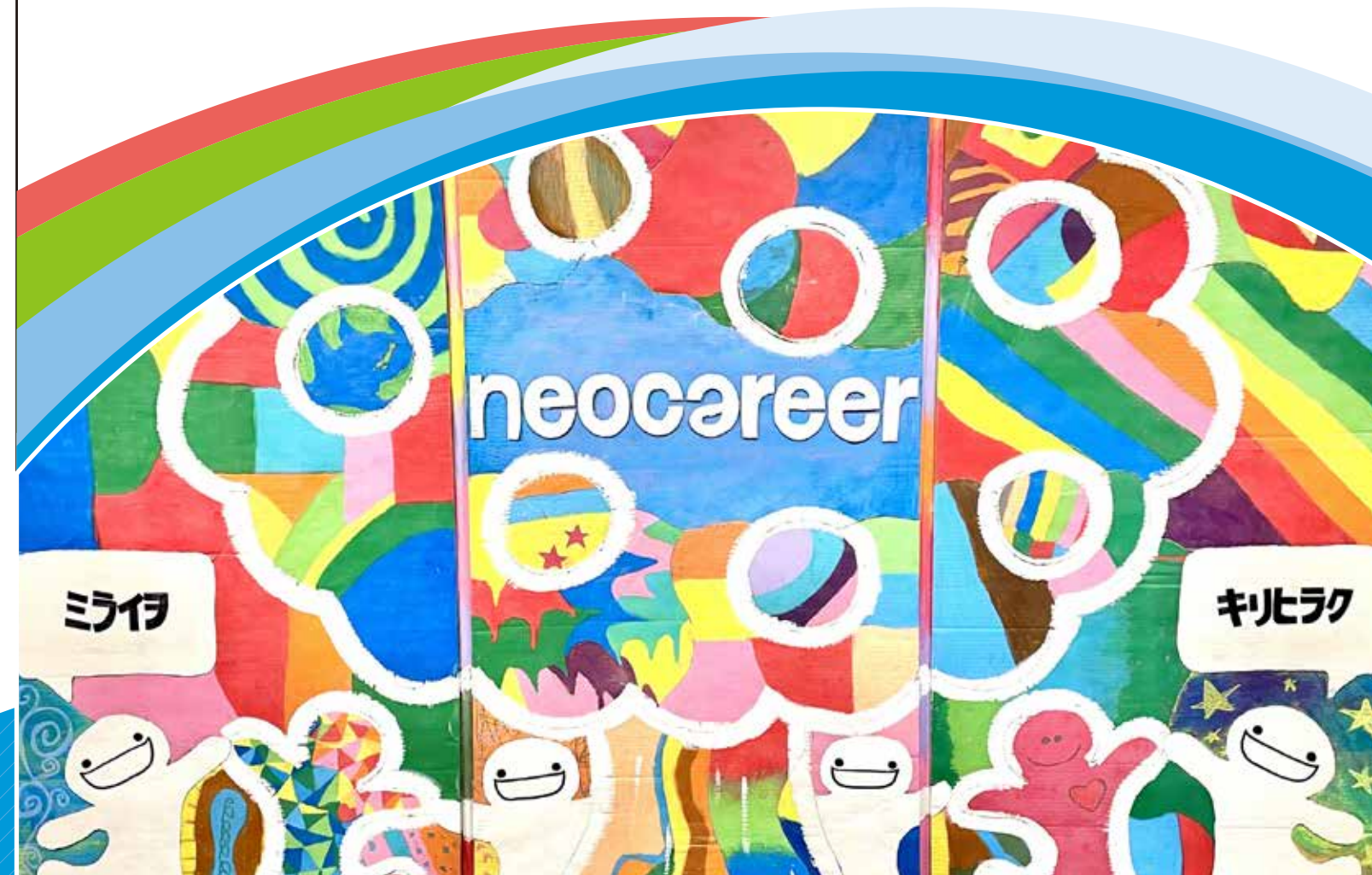


ネオキャリアグループ
サステナブルページ

Sustainable Action Report 2025

ネオキャリア サステナブルアクションレポート2025

課題解決の指針、地域に学ぶ



ネオキャリアは 地域との対話と協働を重視してきました

Think globally, act locally (地球規模の視点を持ち、地域で行動する) ——。
当社はこの理念のもとでサステナビリティ活動を推進しています。

当社の2025年のサステナビリティ活動は、
「キャリア支援」「環境活動」「多様性」の3つの柱を軸に展開しました。
本レポートでは、これら3つの柱を通じて2025年に生まれた「人の変化」と
「地域とのつながり」に焦点を当て、具体的な実践内容を紹介します。

2025年の サステナビリティ活動の 3本柱

キャリア支援
⇒ P4～5

環境活動
⇒ P6～7

多様性
⇒ P8～9

【2025年の主な成果】

- ▶ 協働プロジェクト実施回数：47回
 - ▶ 協働先数：60団体
 - ▶ 2025年社内外参加者数延べ：6,188人
 - ▶ 社内参加者数：498人
 - ▶ 活動満足度
- 協働先：満足度92% (5段階評価、平均4.6)
社内：満足度94% (5段階評価、平均4.7)



単なる活動報告書を超え、未来を考える指針へ

私たちが営む事業は「人」に深く関わるサービスです。製造業のように環境負荷を直接削減できる業種ではありません。
そのため従来の定量的な指標だけでは本質的な価値を測りきることが難しいと考えています。

そのため当社では、地域との対話と協働という「行動」を重視してきました。本社のある新宿区を中心に、教育機関、福祉団体、NPO法人、行政など多様なセクターと連携し、地域の皆さまとの対話から課題の本質を学び、その解決に向けた取り組みを重ねています。これらの活動は、財務指標には表れにくいものの、地域社会との信頼関係を育み、共創を通じて「持続可能な未来」を築くための基盤となるものです。

このレポートは、そうした私たちの挑戦と行動の記録であり、単なる活動報告ではなく、これからの社会における企業のあり方をともに考えるためのものです。その思いを込めて、私たちは本書を「サステナブルアクションレポート」と名付けました。私たちの実践が、皆さまと未来を考えるきっかけとなることを願っています。

トップメッセージ / TOPMESSAGE

“ビジネス”と“社会課題”の解決の両立へ

株式会社ネオキャリア 代表取締役CEO 西澤 亮一

「ビジネスで、社会課題を解決する。」ネオキャリアグループは創業以来、常に社会の声に真摯に向き合い、対話を重ね、社会課題の解決を通じて継続的に成長してまいりました。

そしてこのたび、私たちの企業カルチャーおよび経営の価値観、そしてそれらに込めた決意を、「サステナブル経営」として明文化しました。

ネオキャリアの歴史は、社会課題と向き合い続けた歴史でもあります。就職氷河期やリーマンショック、そして2020年のコロナショックといった国内外のさまざまな要因で、企業と求職者の双方に、多くの課題が生じてきました。

こうした状況を打破するため、ステークホルダーの皆さまとの対話を重ね、その解決策を導き出し、実行していくことこそが、私たちのビジネスの本質です。また、ビジネスと並行してサステナビリティの推進にも取り組んでいきます。企業や団体、求職者、社員とともに、当社の成長と社会の持続の両立を目指し、これまでの取り組みをさらに深化・加速させていく決意です。

社会からの期待に応えるべく、ステークホルダーの皆さまとの協働により持続可能な未来を描くために、私たちは「稼ぐ力」と「社会課題の解決」を両立し、今後も挑戦と行動を続けてまいります。



パーパス (存在意義)

人と本気で向き合い、
未来を切り拓く。

NEO CAREER STATEMENT



2030 7 STARTING LINE

- 1 社会から信頼され、「成長し続ける」企業の体現
- 2 人を取り巻く社会課題を解決する新たな事業「100」の創出
- 3 労働生産性向上につながるNo1事業、プロダクトの創出
- 4 次の10年がもっとワクワクする、次世代経営チームの創出
- 5 性別・国籍・障がい問わず、多様性と個性が発揮できる場の提供
- 6 世代・年齢を問わず、抜擢・登用に挑戦し、活躍できる風土
- 7 地方創生活動を通じた、持続可能な地域社会への貢献

※本レポートにおける「人」とは、お客様、求職者、学生、地域の皆さま、社員、未来世代を指します。ネオキャリアが目指すのは、誰もが主体的にいきいきと働ける社会です。現在だけでなく、将来にわたって持続し、次世代へと受け継がれる社会の実現を目指しています。そのために私たちは、一人ひとりと本気で向き合います。「本気で向き合う」とは、人を想い、人を導き、人の可能性を引き出すこと、そして時には見守ることを意味します。その時々において、ネオキャリアが最も大切な存在となり、お客様とともにより良い未来を築いていきます。

産学民で循環型キャリア支援

高校生が“教える側”となり、主体性の「種」を育む

近年、教育現場では「自ら問いを立て、深く考え、行動する力」の育成が重視され、探究学習が急速に広がっています。一方で、若者の将来に対する不安は依然として大きく、「学び」と「社会」が結びつかないまま、進路選択を迫られる状況も少なくありません。これは単なる学習意欲の問題にとどまらず、生徒が置かれている社会的・心理的環境を反映した構造的な課題といえます。この課題に向き合うため、明星学園高校教員、早稲田大学生、NPO 法人新宿環境活動ネット、そして産学民による多世代連携のキャリア支援プロジェクトが立ち上がりました。



小学生の学びを見守る高校生

プロジェクトは、高校生が小学生に向けて出前授業を実施し、「支援される側」にとどまらず、「教える側」としての役割も担う取り組みとしてスタートしました。

01

インプット中心の学習から、アウトプットの機会を増やす

02

多様な大人との出会いと対話を通じて、自己効力感を高め、キャリア観を育む

03

学校と地域社会を接続し、高校生にとって社会を身近にする

学びが深化する構造に

この取り組みでは、学びが次のように循環しています。



3つの教育的意義

本取り組みの意義は、次の3点に集約されます。

1 多世代協働による自己効力感の醸成

2 社会との距離の縮小と行動意欲の喚起

3 「一度きりのイベント」から「学び続ける活動」への転換

「対話によって自分の考えが深まった」という声も

2025年の活動の変遷

3月

学内公募により約15名の高校生がプロジェクトに参加。産学民多世代キャリア支援プロジェクトの企画会議がスタートしました。

5月

高校生が小学生に向けて探究の魅力を伝える出前授業を、明星学園小学校（東京都三鷹市）にて実施しました。対象は小学4年生71名。テーマは「環境」とし、レジ袋とエコバッグの環境負荷を比較する問いを起点に、対話型の授業を展開しました。

7月

出前授業の振り返りミーティングを実施し、内容のブラッシュアップを行いました。その成果を踏まえ、2回目となる出前授業を高校生主体で企画・運営。大学生・NPO・企業が伴走する形で、世代を越えた対話と学びの場へと発展しました。

10月

出前授業でアウトプットを経験した高校生のさらなる成長を目的に、明星学園高等学校社会探究同好会と連携。当社の人材育成の知見と、同校顧問・比嘉教諭の「外部協働による学びを提供したい」という思いが重なり、ファシリテーター基礎講座およびワークショップ基礎講座を全2回実施しました。

11月

高校生のさらなるアウトプット機会の創出として、外部講師を招いたキャリア勉強会を実施しました。多様な価値観に触れることで、自身のキャリア観を見つめ直す機会となりました。

12月

ESD推進ネットワーク全国フォーラム2025において、本取り組みをポスターセッション形式で発表しました。活動の成果や学びを外部へ発信し、他地域との知見共有の機会となりました。

「身近に課題あると感じた」アンケートから

①活動全体の評価 ・「とても満足」(80%) ・「満足」(20%) ②進路意識への影響 ・「新しい価値観に触れ、視野が広がった」

(80%) ・「外部の大人の話の重要性に気づいた」(70%) ③社会に対する認識の変化 ・多様な価値観の存在を理解した ・身近なところに課題があると感じた など ④その他 ・行動してみる大切さに気づいた ・外部との関わりが増えた など



担当者から：対話と実践を重ねることで、学びの循環モデルは着実に深化しています。今後も世代や立場を越えた協働を通じて、若者が未来を主体的に選択できる社会づくりに挑戦していきます。

環境活動を通じた人材育成 環境教育で”未来の担い手”と向き合う

企業による環境活動と聞くと、CO₂削減やリサイクルなど、環境負荷そのものを減らす取り組みを
もちろんそれらも重要です。しかし私たちが向き合っているのは、「環境」そのものだけではありません。

私たちが大切にしているのは、環境をきっかけに生まれる“人の成長”と“社会とのつながり”です。
その思いを進路や仕事につなげられず、自分の居場所を見つけにくい若者が増えているように思います。
「関心」を、成長の過程で失ってしまうという構造的な課題もあります。

私たちの活動は、環境教育を入り口に、次世代が社会と出会い、自らの関心と未来を結びつけていく

思い浮かべるかもしれません。

近年、社会課題への関心を持ちながらも、
社会に出る前に育まれた「興味」や

機会をつくる試みです。



環境省「環境教育・ESD実践動画100選」認定

私たちは3年間にわたり、新宿区内の小学校にて年間10回程度の環境出前授業を定期的に継
続してきました。この産学民連携による持続的な取り組みを紹介した動画が、環境省の「環境教育・
ESD実践動画100選」に選定され、認定団体として表彰されました。

非製造業、および人材サービス企業という立場から、教育やキャリア支援を通じて環境教育に持
続的に取り組んできた姿勢が、高く評価されています。

※ESD (Education for Sustainable Development=持続可能な開発のための教育)とは：持続可能な社会の担い手を育成するための教育。環境、経済、
社会の統合的視点から、主体的な学びと行動変容を促し、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動のこと。

詳しくは
コチラ



〈小学校での学びの循環の例「早稲田大学環境ロドリゲスとの連携」〉

- ・大学サークルと連携し、新宿区内の小学3年生を対象
に「プレシャスプラスチック※」をテーマとした体験型
の環境出前授業を実施しました。
- ・また、小学4年生から6年生を対象に「リサイクル」を
テーマに興味と関心を深める体験型の環境出前授業
を実施しました。



「プレシャスプラスチック」をテーマに

「リサイクル」をテーマに

※プレシャスプラスチック…回収したプラスチックキャップや容器を粉砕・加熱・成型し再資源化するプロジェクト

未来を担う人材育成に向けて継続した支援を期待したい

連携先：NPO法人新宿環境活動ネット 代表理事 飯田貴也さん

人材サービスを提供する企業としてのご経験やノウハウを活かし、環境出前授業を
コーディネートしていただきありがとうございます。今回の授業は、小学生にとっては
身近なロールモデルとなる環境活動に取り組む学生から専門知識や経験を得ることが
でき、大学生にとっては学内でできない貴重な社会経験ができる、お互いにとって充実
した学び合いの場になりました。サステナブルな未来を担う次世代人材育成に向けて、
今後とも継続的にご支援・ご参画いただけるとありがたいです



学校は「広い世界と出会う場」だから

連携先：新宿区立西新宿小学校元校長 長井満敏さん

西新宿小学校では、企業や大学など学校の外部機関との連携を重視しています。そ
れは、学校を「体系だった知識を習得する場」と捉えるよりも、「広い世界と出会う場」
と考えるからです。世界は、不思議や謎に満ちている。愛と滋養に溢れているが、一筋
縄で解決できない難しい面もある。外部と連携した活動から、子どもたちにはこれら
を感じ取ってほしいと願っています。「世界と出会うワンダーランド」を学校経営のテー
マに掲げ、児童が森羅万象に出会い、興味・関心の幅を広げることに取り組んでいます。



〈その他の賞〉新宿区立環境学習情報センターが主催する「第18回新宿エコワン・グランプリ表彰式」で、「環境にやさし
い事業者部門」の「奨励賞」を受賞。新宿区が掲げる「ゼロカーボンシティの実現」やSDGsの達成に貢献する、その年の新
宿で特に優れた環境・社会貢献活動、および取り組みを表彰するものであり、ネオキャリアは第16回での「奨励賞」、第17
回での「優秀賞」に続き、新宿区初の3年連続の受賞となります。

日本環境教育学会での発表

北海道釧路市で開催された第36回 日本環境
教育学会年次大会にて、企業とNPOの連携に
よる「総合人材会社による次世代環境人材育
成モデル」を発表しました。

※日本環境教育学会とは：一般社団法人日本
環境教育学会は、1980年に設立された国
内最大規模の環境教育学会。



一般社団法人
日本環境教育学会



NPO法人
新宿環境活動ネット

新宿区『みどりの小道』

環境日記コンテスト

新宿区とNPO法人新宿環境活動ネット主催の
「2025年度新宿区『みどりの小道』環境日記
コンテスト」に協賛し、企業賞「未来を切り拓く
で賞」を創設して表彰式を開催。



表彰式の詳細

生物多様性調査 4年目の挑戦

東京都新宿区の都立戸山公園、そらとだいち
の図書館、新宿区立中央図書館にて産学民福
連携インセクトキャリア研究会の主催により親
子参加型の生物多様性探究イベント開催。

※インセクトキャリア研究会とは、当社に加え
新宿区の地域団体「えんがわ家族」、新宿区
障害者福祉事業所等ネットワーク「しんじゅ
Quality」、早稲田大学環境サークル「環境
ロドリゲス」など、多様な立場のメンバーが
集まった地域団体。

担当者から：環境を大切にしながら、未来の担い手と向き合い続ける。小さな学びの
場から始まるこの関係性が、持続可能な社会を支える“力”になると信じて。



地域福祉との連携

オフィス空間をアート作品の展示会場に

多様性は、知識として理解するだけではなく、出会いの中で育まれるものです。

私たちのサステナブル活動における「多様性」への取り組みは、制度整備や研修だけでなく、地域の福祉と関わり向き合い続けることで、多様な価値観が自然に交わる環境を育てています。

その象徴が、4回目を迎えた「新宿アール・ブリュット企業展」です。

単なるアート展示ではありません。企業と福祉が“支援する・される”という関係を越え、連携して多様性と出会う場を育て続けている取り組みです。

「これ、誰が描いたの?」

「企業のオフィス空間を、福祉アートの展示会場として開くことはできないか」。その問いから始まった小さな挑戦は、回を重ねるごとに共感の輪が広がり、2025年には「新宿区内社会福祉法人連絡会」と協賛企業からなる「新宿アール・ブリュット企業展推進コンソーシアム」の活動として、第4回を迎える継続的なプロジェクトへと発展しています。

展示会を実施する企業のエントランスや会議室など、社員が日常的に過ごす空間に福祉アート作品が展示されることで、「これ、誰が描いたの?」「どうやって作ったんだろう?」。そんな自然な会話が生まれ、アートが“多様性への気づき”を生む会話のきっかけとなっています。

アーティストにとっても、この展示は大きな意味を持ちます。自らの作品が企業空間に飾られ、社員や来訪者の目に触れることで、対話のきっかけや創作意欲の向上につながっています。社会とつながる実感を得られる場になっています。

※「新宿アール・ブリュット企業展推進コンソーシアム」とは新宿区内45の社会福祉法人で構成される「新宿区内社会福祉法人連絡会」を会員として、また、協賛企業を特別会員として迎え、「新宿アール・ブリュット企業展」の運営を行うコンソーシアムのこと。

※「アール・ブリュット」とはフランス語で“生の芸術”という意味。「正規の美術教育を受けていない人による芸術」や「既存の美術潮流に影響されない表現」等と説明されることが多い。



展示だけで終わらない“関係の積み重ね”

この取り組みは、企業展の開催だけにとどまりません。4月には、「第3回新宿アール・ブリュット企業展」の表彰式が新宿区立障害者福祉センターで開催され、約170点の作品の中から選ばれた10作品のアートが表彰されました。その後、受賞アーティストとともに新宿区の吉住 健一区長を表敬訪問し、活動の意義や継続的な地域連携の重要性について意見交換を行いました。

さらに7月には、当社と障害者福祉センターとの共催による「ネオキャリア アール・ブリュット特別展」を実施し、6名のアーティストによる作品展示に加え、2名のアーティストによる制作デモンストレーションも実施しました。直接作者と対話することで表現の方法や背景の想いに直接触れる機会が生まれました。

そして12月の「第4回新宿アール・ブリュット企業展」へとつながります。単年、単発のイベントにならないように、持続的に関係を深め、出会いの機会を増やすためにはどうしたらよいかを考えて実施しています。



「福祉アーティストによるデモンストレーションの様子」

展示会きっかけにボランティアや寄付も

オフィスでの展示など多様性への取り組みは、社員の自主的な社内勉強会への参加やボランティア活動への参加に広がっています。

<社内勉強会>

- 新宿区立障害者福祉センターとの連携によるDEIウェビナー
- NPO法人ルーツ・ユアセルフのメンバーであり、医療・看護・リハビリの専門学校「首都医校」にてチーム医療・福祉分野の人材育成に尽力されている高橋 章郎さんとの地域連携による「メンタルヘルス対策セミナー」

<ボランティア活動>

- 新宿区立早稲田小学校での多様性の出前授業
- 新宿区立西新宿小学校でのダイバーシティウォールパズルアート
- 新宿区障害者福祉事務所等ネットワークの養蜂事業「しんじゅ Qualityみつばちプロジェクト」の採蜜イベントボランティア

<寄付>

- 「ジョブボン」による福祉施設への本の寄付や「フードパントリー」による新宿区社会福祉協議会への食品の寄付の活動も2023年より続ける。



アート展の表彰式の様子



集まった食品の寄付

※ダイバーシティウォールパズルアートとは、白線画家猫沢八郎さん発案のワークショップ形式の体験型アートプロジェクト。

※「しんじゅ Qualityみつばちプロジェクト」とは、農地を必要としない屋上を利用した“都市型養蜂”。障がいのある方々が自然とのふれあいや社会参加の機会を得ると同時に、企業や地域住民との接点を創出する。

※地域社会貢献Dayとは、社員の自発的な社会参加を支援するため、ネオキャリアグループに在籍する全社員が利用できる特別休暇制度。

※ジョブボンとは「JOB（仕事）」と「本」を組み合わせた造語で、本の再利用を通じて障がい者就労支援を行う活動。

※フードパントリーとは区内在住の子育て世帯向けに実施している定期的な食品配付会（年2回）



担当者から：多様性は、スローガンや目標では根付きません。当事者と出会い、対話し、関わり続けることで理解へと変わります。私たちができることは、接点を増やし向き合い続けることです。

地域とのつながり、社員の行動を変える

ネオキャリアは、多様なフィールドで地域との交流を重ねてきました。

地域の駅伝大会、小学校へのボランティア活動、新宿区の清掃活動、SDGs イベントなど、

「学び」と「仕事」、「地域」と「企業」をつなぐ実践の場を各地で展開しました。

これらの交流は、単発の支援ではなく、企業が地域の一員として関わり続ける関係性を育んでいます。



教育ボランティアに参加する社員の様子



地域の清掃活動に参加する社員の様子

2025年の「サステナブルインパクト」

サステナブルインパクトとは、企業のサステナビリティ活動が社会課題の解決や価値創出にとどまらず、社員の意識や行動、事業のあり方に波及し、その先に生まれる人・組織・地域の変化を可視化することで、企業の持続的成長へとつなげていく社内外のポジティブな影響を指します。

2025年、私たちは多様なフィールドで、社外のパートナー、そして社員とともにサステナブルな実践を重ねてきました。本見開きでは、協働前後の調査結果をもとに、社外と社内の双方にどのような意識・行動の変化が起きたのかを整理し、ネオキャリアのサステナブル活動が生んだ「サステナブルインパクト」を可視化します。

① 社外と社内のインパクト比較 (全体像)

2025年のネオキャリアのサステナブル活動は、社外・社内の双方に確かな変化をもたらしました。

社外では、「企業と関わりたいが、入口がない」という課題に対して、当社がハブとなり、協働のための接続構造をつくりました。社内では、「関心はあるが、自分ごと化できていない」という課題に対して、実際に行動できる機会を提供しました。この両輪が同時に動いたことが、2025年の最大のサステナブルインパクトです。

■ サステナブルインパクト結果

※2025年1年間の数値

- ・協働アクション回数：47回
- ・協働先数：60団体
- ・参加者数（累計）：6,188人
- ・社内参加者数：498人
- ・寄付数：145件
- ・エントリー・申込数：2,348件

■ 調査概要 (共通)

- ・社外：協働先代表 35名
- ・社内：活動参加社員 52名
- ・評価方法：5段階評価 (5.00が最高評価)

② 社外へのサステナブルインパクト 地域の「協力者」を「当事者」へ

2025年の60の社外協働先から協働先代表を中心に35名にリサーチしました。

社外インパクト(要約) ・企業との協働への関心と必要性は潜在的にある ・「企業と地域をつなぐ入口の欠如」が課題 ・企業が接続構造を提供し、協働先は「協力者」から「当事者」へ変化した

<活動前のアンケート> ※5段階評価 (最高評価 5.00)

- ・企業との連携への関心度：4.29
- ・企業との連携の必要性：4.03
- ・企業のサステナブル活動への事前理解：3.29

<活動後のアンケート> ※5段階評価 (最高評価 5.00)

- ・協働により課題解決に近づいた実感：4.26
- ・協働によりサステナブル社会への関与した実感：4.09
- ・企業や他団体と協働をする価値：4.69
- ・企業が活動に関わることの意義の理解：4.67

③ 社内へのサステナブルインパクト 社会への関心を、行動に変え企業の誇りへ

2025年の活動に参加した498名の社内メンバーの中から52名にリサーチしました。

社外インパクト(要約) ・学び・誇り・社会貢献実感が活動と同時に向上 ・一部に実感の弱さが残り、成果の見える化が今後の課題

<活動前のアンケート> ※5段階評価 (最高評価 5.00)

- ・地域との協働への関心：3.87
- ・企業によるサステナブル活動への関心：3.76
- ・地域と企業が協働する意義：3.26
- ・会社への愛着・誇り：3.83

<活動後のアンケート> ※5段階評価 (最高評価 5.00)

- ・地域との協働への関心向上：4.60
- ・地域との協働による新たな学び・気づき：4.57
- ・活動後の会社への愛着・誇りの向上：4.23
- ・活動を通じて社会に関わっている実感：3.89
- ・地域との協働や対話の必要性：4.59

活動の成果や社会的意義をどのように伝え、どのように次の行動につなげていくかが、今後の重要なテーマです。2026年は、「さらなる活動の目的と成果の可視化によるサステナブルインパクトの向上」「社員一人ひとりの関与実感を高める設計」に注力し、サステナブルインパクトが組織と社会の成長につながるよう発展させていきます。

第2回マルチステークホルダーダイアログ ステークホルダーとの対話を、 次の行動に変える

詳しくは
コチラ



2025年には、第2回マルチステークホルダーダイアログを開催。

※マルチステークホルダーダイアログは 企業がさまざまなステークホルダーを集め開催する双方向の対話のこと。

<ご協力いただいた団体・組織(五十音順)> えんがわ家族、そらとだいちの図書館／一般社団法人NPO協働機構(コラボ・ジャパン)／一般社団法人ワーキングバリアフリー／株式会社Criacao／首都医校 高度作業療法学科／社会福祉法人新宿区社会福祉協議会／社会福祉法人新宿区障害者福祉協会／社会福祉法人東京ムツミ会／特定非営利活動法人新宿環境活動ネット／高田馬場経済新聞／東京ボランティア市民活動センター／NPO法人ルーツ・ユアセルフ／早稲田大学環境ロドリゲス／Hugmom ほか



感謝のメッセージ(編集後記)

私たちのサステナブル活動とサステナブルアクションレポートは、私たちの想いだけでなく、ステークホルダーの皆さまと共に築いた地域のストーリーでもあります。その持続的な関わりは、私たちの「行動の履歴書」として、このレポートに蓄積されています。これからも「Think globally, act locally.」を大切に、皆さまと共に歩み、オープンな対話を続けていきます。連携いただいているすべての方、貴重なご意見を寄せてくださったすべての方に、心から感謝申し上げます。 サステナブル推進 高山

一つの対話から、未来は動き出す。

良い未来を切り拓くために、サステナブル活動やサステナブルアクションレポートについて、ぜひ対話の機会とご意見をお聞かせください。

詳しくは
コチラ

